

■ 全体講評

【共通】

(1) 解答の注意事項について

答案用紙の問題選択欄の問題番号を○印で正しく囲んでいない答案があります。本試験では採点されません。問題冊子の注意事項を十分確認してください。

(2) 問題選択と時間配分について

時間不足になった方は、公開模試の結果を参考に、問題選択と時間配分の作戦を見直して本試験に臨んでください。得意分野から解答して、確実に得点を積み上げることが基本です。本試験は集中力の勝負です。最後の1分まであきらめずに問題に取り組むことが合格へつながります。

問1～問2で14点、問3～問12で11点以上得点できた問題は得意分野と考えてよいでしょう。本試験でも自信をもって得点を稼いでください。

(3) 製品名などの使用について

「ウイルスバスター」や「Windows Update」のように、固有の製品名やサービス名を使用した解答があります。問題文に記述のない固有の製品名やサービス名、企業名は使わないでください。

(4) 部分点について

部分点は配点の半分で、小数点以下は切上げしていません。

<午後>

問1 インキ製造メーカーの事業戦略

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例だけを正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。

[設問2]

- (1) 解答例だけを正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。

[設問3]

- (1) 解答例だけを正解としました。
- (2) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。単に「特徴のある製品」とまとめて、開発力に言及せずに現有の製品の強みだけを記述したものは不正解としました。「製品を産み出す技術力」を表現せずに、単に「高い技術力」だけを表現したのも不正解としました。

[設問4]

解答例のほかに、「早くから研究に取り組み、技術面

で他社より優位なため」のように強みを生かす視点や、「市場拡大に乗じて食品業界のシェア拡大を図るため」のように、機会を生かして弱みを克服する視点も正解としました。単に「UV インキが環境にやさしい」のように製品の特徴だけを記述したものは不正解としました。

【講評】

経営戦略マネジメント分野の成長マトリックスやPPM、競争戦略などを理解しているかどうかで得点に差が出たと思われます。全体としては正答率が高くなりました。主要な戦略理論について、用語と考え方を確認しておきましょう。

設問1(1)では、「新規事業」や「新製品」などのキーワードを押さえることがポイントです。(2)では(ウ)や(オ)は一般論からみても適切ではありません。

設問2では、三つの事業の特徴を比較して、確実なものから確定していきます。

設問3(2)では、競争力の源泉が問われていますが、外部環境を述べている解答があります。戦略を実現するための自社の強みを述べます。新製品を継続的に開発していく必要がありますので、現在の製品だけでは競争力の源泉とは言えません。

設問4では、単に「当該製品が環境にやさしい」という特徴だけを述べた解答があります。新規事業として取り組むためには、外部環境も加味した踏み込んだ理由が必要です。

問2 乗除算プログラム

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例だけを正解としました。
- (2) 解答例だけを正解とし、「 $112+224=336$ 」は不正解としました。

[設問2] 解答例だけを正解としました。

[設問3] 解答例だけを正解としました。

[設問4] 解答例だけを正解としました。

[設問5] 解答例だけを正解としました。

【講評】

問1よりは選択者が少なかったです。全体としては正答率が高くなりました。多くの方がアルゴリズムを理解できたと思われますが、ケアレスミスが目立ちます。時間配分に気をつけながら、条件式の部分など細かなところをしっかりと確認するようにしてください。

設問 1 (1)では、添字ではなく、乗数を構成する数字や被乗数の加算値を解答したケアレスミスがありました。(2)では採点基準で挙げたように、問題文の手順に忠実に表現してください。

設問 2 は正答率が高かったです。

設問 3, 設問 4 ではケアレスミスが目立ちました。大小関係を逆にしたり、以上あるいは以下が含まれなかったり、配列名が異なったりです。ケアレスミスと言えませんが、力の差が出る部分といえます。確認作業に少しでも時間配分して確実に得点できるようにしましょう。また、代入式をはじめとする表記は問題文でのプログラムの表記に合わせてください。

設問 5 の (キ), (ク) は正答率が低かったです。解説を参照して復習しておきましょう。

問3 経営戦略とナレッジマネジメント

【採点基準】

〔設問1〕

- (a) 解答例のように「体系化」や「分類整理」の観点が表示できているものを正解としました。単に「文書化」を述べたものは不正解としました。
- (b) 解答例のように「社内研修」の観点を表示できているものを正解としました。単に「学習」や「勉強」を述べて、外部研修との違いが不明確なものは不正解としました。

〔設問2〕 解答例だけを正解としました。

〔設問3〕 解答例だけを正解としました。

〔設問4〕 解答例と同じ趣旨を正解としました。問題点として「若手社員の基礎力不足」、根拠として「ゆとり教育」を指摘したものは不正解としました。また、対応策として「若手社員の自己学習」を挙げたものは不正解としました。別解で問題点として「学習効果が上がらない」、根拠として「学習の意欲不足」、対応策として「インセンティブを与える」というセットも正解としました。

【講評】

SECI モデルをはじめ、ナレッジマネジメントについては問題文で説明されているので、設問の趣旨と問題文の内容を的確に把握できた方は高得点できたと思われます。

設問 1 (a)では「文書化」を挙げた解答がありました。図 2 と図 3 を対比してみると、「必要な資料を補充する」が文書化に該当します。「体系的な整理」の方が空欄 a に確実に該当します。(b)は正答率が低かったです。自己啓発に含まれるものは、図 3 から明らかに該当しません。また「集合研修」そのものは図 3 で空欄 b の上位概念です。不適切です。

設問 2 は時間があればやさしい問題ですが、制限時間の中でそれぞれの特徴を照合する作業が求められました。

設問 3 は正答率が高くなりました。

設問 4 では、問題点として「社員の基礎力が低い」のように現状(事実)を記述した解答がありました。設問 2 (エ) の手段を実行した場合に、発生が予想される問題が問われています。また、「先輩の指導力」に着眼した解答もありました。先輩社員の時間不足の問題は除外するとありますので、図 2 の構造図において先輩社員のルートは外すのが確実です。

問4 フラッシュ SSD を使用したディスクアレイ

【採点基準】

〔設問1〕 解答例だけを正解としました。

〔設問2〕

- (1)「パリティ専用の SSD」を明示せずに、「1 台の SSD」に書込みが集中する趣旨の解答は部分点としました。また、「パリティ専用の SSD への書込み集中」だけを記述して「SSD の寿命」に言及できていないものは不正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。

〔設問3〕 解答例だけを正解としました。

【講評】

知識が必要な問題もあり、午前問題で出題されるレベルの知識がしっかり整理できているかどうかで、得点に差が出たと思われます。

設問 1 では、(c)と(d)を逆に解答したものが多くありました。基礎的な知識問題では確実に得点できるようにしましょう。

設問 2 (1)では設問の把握が不十分な解答が目立ちました。単に SSD の欠点を指摘して RAID4 における問題点を記述できていない解答が多くありました。また、問題点ではなく、理由や対策を記述した解答もありました。(2)は正答率が低くなりました。解答群が用意されたために、逆に難易度が上がったと思われませんが、このような出題パターンにも慣れておきたいです。

設問 3 は得点がばらつき、力の差がでています。特に空欄 h の RAID6 の正答率が低くなりました。定番問題の一つですので、間違った方は十分復習しておきたいです。

問5 DNS(Domain Name System)の仕組み

【採点基準】

〔設問1〕 解答例だけを正解としました。

〔設問2〕 解答例だけを正解としました。

【設問3】 解答例だけを正解としました。

【設問4】 解答例だけを正解としました。

【設問5】 解答例のほかに、「UDPには確認応答がない」点に着眼したのも正解としました。「再送処理」だけに着眼したものは不正解としました。

【講評】

全体としては正答率が低くなりました。ネットワーク分野を選択予定の方は、参考書などを活用して、技術的な知識や運用管理の要点全般を整理しておきたいです。

設問1では空欄b, eの正答率が低くなりました。

設問2は正答率が低かったです。権威DNSサーバは外部に対してサービスを提供しますので、自社内の内部に設置することはありません。

設問3も正答率が低かったです。「ポート番号」はプロキシサーバ上で動作しているプロセスを識別するものです。プロキシサーバがどのプロトコルでアクセスするかを指定する情報はURLです。

設問4は知識の有無で得点に差が出ました。

設問5はTCPとUDPの違いに着目する必要があります。「UDPはTCPのように信頼性が高くない」は、これ自体は正しいのですが、その理由を技術的に説明したいです。「UDPは完全性を保証しないから」という解答もありましたが、問題文に記述のあるDNSSECはデジタル署名を使ってデータの完全性と応答元の真正性を保証します。TCPのチェックサムによる完全性保証は、UDPのチェックサムと同じレベルの誤りチェックです。

問6 図書貸出管理システムの設計と実装

【採点基準】

【設問1】

- (1) 解答例だけを正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。

【設問2】 解答例だけを正解としました。

【設問3】 解答例だけを正解としました。

【講評】

正答率は低くなりました。データベース分野を選択予定で思うように得点できなかった方は、過去問題や予想問題に取り組み、数をこなして慣れておきたいです。

設問1(1)では、空欄(b)の正答率が低かったです。空欄(a)も含めて、学習によって十分克服できる問題です。(2)では、「返却は1冊単位」の部分の読み落としによる間違いが目立ちました。問題文をどのように読めばよいかを復習しておきたいです。また、主キーと外部キーの記述の間違いや漏れがとても多いです。キー指定は出題

される確率が高いので、十分確認するようにしてください。

設問2では、SQLの文法知識で得点に差が出ました。INSERT文やUPDATE文などの構文やAVGなどの集合関数の表記をしっかりと暗記してください。難易度はやや高いですが、テーブル名と項目名の対応を押さえれば、得点できる箇所もあります。

設問3では、主キーを含めてしまったケアレスミスが目立ちました。

問7 広告ディスプレイ用MP3プレーヤの開発

【設問1】

- (1) 解答例だけを正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。

【設問2】

- (a) 「リンクバッファにデータがあるか」は部分点としました。
- (b) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。
- (c) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。

【設問3】

- (1) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。
- (2) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。

【講評】

問7を選択した方は最も少なくなりました。

設問1は正答率が低かったです。PCMサンプリングに関する計算を確認しておきましょう。

設問2(a)では「リンクバッファにデータがあるか」が目立ちました。流れ図の空欄穴埋め問題では、他の部分に合わせて表記するように留意してください。(b), (c)は二つとも解答できた方は少数でした。ヒントは問題文中や流れ図の他の部分にあることが多いので、時間を決めて探すようにしてください。

設問3(1)は正答率が高く、(2)は低かったです。(1)では「制御タスクの優先度が高い」ことだけを述べた解答がありましたが、再生音が頻繁に途切れる理由としては説明不足です。(2)については解説にあるように、問題文中にヒントがあることも多いですので、問題文の読み方をもう一度確認しておきたいです。

問8 販売管理システム

【採点基準】

【設問1】 解答例だけを正解としました。

【設問2】 解答例だけを正解としました。

【設問3】 解答例のように「受注日以前」かつ「最新」という条件を記述したものを正解とし、一方だけを表現したものは不正解としました。

[設問4]

- (1) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。解答例のほかに、「端数に応じた商品を登録する」なども正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。

【講評】

得点がばらついて差が出ました。設問2のシーケンス図の問題などは定番問題ですので、慣れている方は確実に得点できたと思われます。設問3, 4は考察問題で、問題文を的確に読み切れたかどうかで差がついたと思われます。

設問1(b)で「受注金額」は値引き前の金額ですので、値引きの情報を保持できないため不適切です。「請求金額」は受注金額合計から値引額の合計をマイナスした金額ですので、受注明細の属性ではありません。(c)では受注明細が最大5件であることの読み落としが多くありました。定番パターンですので、問題文の読み方を確認してください。

設問2(d), (e)及び(g)はクラスの操作名をそのまま選択します。正確に記述していない解答が目立ちました。これも定番パターンですので、十分確認してください。

設問3は二つの条件が必要です。このような複数条件パターンも出題されます。

設問4(1)では結果的にクラス属性の変更を伴う対応策が多くありました。現状のシステム仕様での運用方法を検討します。対応策を想起できていると思われるものでも、「別の商品として登録する」という運用のポイントが伝わらない解答もありました。不正解になっている方は見直してください。(2)の属性では「出荷個数」という解答が多くありました。出荷個数は梱包数量から計算すると書かれていますので、クラス属性としては梱包数量を保持する必要があります。

問9 マルウェア対策と情報漏洩対策

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例だけを正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。
- (3) 解答例だけを正解としました。
- (4) 解答例だけを正解としました。
- (5) 「セキュリティソフトウェアを導入」も正解としました。

[設問2] 解答例だけを正解とし、完全正答で採点しました。

【講評】

正答率はやや低くなりました。特に設問1(1)や(3)は

定番問題と言えますので、間違った方は十分確認しておきたいです。

設問1(1)の正答率は低かったです。表のアプリケーションの通信は、送信元からあて先にリクエストを送る方向に従って通信を許可しています。例えば、社内ネットワークのPCが社外のWebサイトを閲覧するときには、社内ネットワークからプロキシサーバへHTTPプロトコルで通信しますが、その応答メッセージの通信許可は表の1行目のルールに含まれます。DNSも同様です。空欄aではHTTPやDNSという解答が目立ちましたが、これらの応答メッセージの通信は空欄aには不要です。空欄aには、DMZから社内ネットワークに接続するSMTPが該当します。

(2)は(イ)の間違いが多くありました。

(3)は(キ)と(エ)を逆に解答したものが多くありました。ファイアウォールの二つの方式である、パケットフィルタリング方式とアプリケーションゲートウェイ方式は頻出テーマです。解説を確認してください。

(4)は正答率が高かったのですが、サーバ名という指定の見落としや「プロキシサーバ」のような不適切な言換えがありました。

(5)では、空欄fに解答を当てはめた場合、日本語の文章としてつながりの悪い解答がありました。文章の空欄穴埋めでは、必ず文章の流れまで確認してください。

設問2では、シンクライアントの特徴を確認しておきましょう。

問10 基幹系システム再構築プロジェクトの変更管理

【採点基準】

[設問1] 解答例だけを正解としました。

[設問2] 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。

[設問3] 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。

[設問4] 解答例だけを正解としました。

[設問5] 解答例だけを正解としました。

【講評】

全体として正答率が高くなりました。プロジェクト管理の一般的な知識と、問題文の記述内容を合わせて考察することがポイントになっています。

設問1は正答率が高かったです。

設問2では、図2の手順フローに既にかかれているものと重複する内容や、問題文に記述のない一般的なプロセスを解答したものが散見されました。図表と問題文を対応させることは解答の基本パターンです。

設問3では、「場合」が問われていますが、解答の最後が「～のため」のように理由を解答しているものがありました。設問の読み違いは大きなロスですので、注意

してください。

設問 4 の誤りでは (エ) を解答したものが多くありました。解説にあるように、問題文をていねいに読めば除外できます。

設問 5 は正答率が高かったです。

問11 受注管理システムの障害管理

【採点基準】

〔設問1〕

- (1) 解答例のほかに「可用時間」は正解としました。
「利用時間」、「稼働時間」、「サービス率」などは不正解としました。
- (2) 解答例のほかに、「想定以上の処理件数発生への考慮」のように、応答性能のサービスレベルを 100%保証することの困難性を述べた合理的なものは正解としました。

〔設問2〕

- (1) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。

〔設問3〕

- (1) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。
- (2) 解答例のように「LB による振り分け処理」について適切に表現したものを正解としました。

【講評】

全体の正答率はやや低くなりました。問題文や設問に示された観点を押さえることに留意してください。

設問 1 (1)で「利用時間」や「サービス時間」は稼働率ではなく、通常は「何時から何時まで」のようなサービスレベルになります。(2)は、オンラインレスポンスタイムという性能のサービスレベルがテーマです。「計画停止」や「再起動」などは稼働率に関係します。

設問 2 (1)は正答率が低くなりました。問題文のヒントを基に、キャパシティ管理における需要予測の必要性に着目することが求められました。(2)では (イ) や (ウ) の誤りが目立ちました。設問文の「保守性の観点」を押さえられたかどうかで得点に差がついたと思われます。

設問 3 (1)では「IP アドレスの設定」のように一般的な知識から考えた作業項目を解答したものが多くありました。この設問において一般的な作業項目を正解にすると、なんでもありになってしまいます。問題文の記述から考察することを心掛けてください。(2)では、システム構成や設定の変更に伴って、そのテスト作業が必要な点は定番テーマの一つですので、確認しておきたいです。性能面の検証に着目した解答もありましたが、開発環境のシステム構成を考慮すると、性能面ではなく振り分け動作の検証がマッチします。

問12 アウトソーシングのシステム監査

【採点基準】

〔設問1〕

- (a) 解答例だけを正解としました。「監査手順書」「監査実施計画」などは部分点としました。
- (b) 解答例のほかに「レビュー」も正解としました。
「事前調査」は部分点としました。

〔設問2〕

- (体制) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。監査人の独立性に着眼できているものの「E 主任」と特定されていないものは部分点としました。
- (承認) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。

〔設問3〕

- (1) (項番) 解答例だけを正解としました。
(内容) 解答例と同じ趣旨だけを正解としました。
- (2) 解答例だけを正解としました。

【講評】

得点にばらつきがみられました。システム監査分野に対しては「監査手続」をはじめ、監査証拠や監査証跡、本調査、予備調査のような監査用語を確認しておきたいです。

設問 1 (a)では「監査手続」というキーワードを解答した方は少なかったです。「予備調査」の方が解答できていました。(b)では「ヒアリング」という解答も多かったです。ヒアリングに着眼できるのであれば、問題文の「本調査」というキーワードから「予備調査」を想起するまでもう一步です。

設問 2 の体制に関しては、独立性の観点は定番テーマの一つと言えます。外観上の独立性と精神上的の独立性についても整理しておきたいです。「外部の専門家が参加していない」という観点の解答がありましたが、外部監査人の参加は必須ではありません。また、体制の観点以外の解答も散見されましたので、注意してください。

計画の承認に関しては、このシステム監査では情報システム部門が被監査部門であることを読み取れていない解答がありました。

設問 3 (1)では、「サービスレベル」に着目した解答がありましたが、サービスレベルは監査項目(4)が該当しています。(2)は正答率が高かったです。アウトソーシング契約に付随する書類は多々ありますが、問題文の主テーマであるサービスレベル保証を基に考察したいです。

以上